

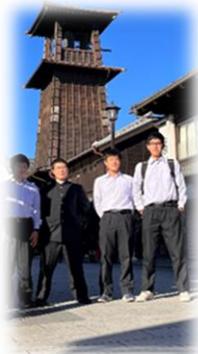
よろくぶ通信

群馬県立玉村高等学校
発行日 2023.1.10
第 59 号
発行人 校長 田島 正徳

1学年は「蔵の街川越」に行き、川越のお菓子を食べながら明治、大正、昭和の雰囲気の街並みを堪能しました。その後職場見学で群馬の人気のお菓子の製造元ガトーフェスタハラダの工場見学をしました。その日はまさにはお菓子づくりの1日でした。



ガトーフェスタハラダ



小江戸川越散策



2学年は沖縄修学旅行を実施いたしました。中学時代の修学旅行も中止された生徒が多かったので、久しぶりの修学旅行で新鮮な気持ちで旅行を楽しむことができました。初めての飛行機、初めての沖縄、初めてのマリンスルーの海等と初めての体験をした人も多かったのではないかと思います。本土と違う文化、風土、習慣の中で4日間を過ごし生徒も多くのことを学び、吸収できたようです。



ひめゆりの塔



むら咲むら体験学習



エイサー体験

3学年は、ハイランドホテルでSDGsの学習をし、将来どんな社会貢献ができるかを考えました。富士急ハイランドでは絶叫アトラクション、レトロなお化け屋敷等を楽しみました。富士山をバックに記念撮影をしました。もうすぐ卒業、思い出深い学習とレクリエーションができました。



SDGsの学習



富士急ハイランド



<新生徒会役員>

会長 清水愛理(2年)	副会長 八木悠宇(2年)
副会長 大島匠人(2年)	書記 丸山結花(1年)
書記 小屋原紗希(1年)	書記 戸矢梓(1年)
会計 関根拓柊(1年)	会計 阿部昂(2年)
会計監査 宮澤志穂(2年)	

本年度、玉高100周年を迎えました。歴史に負けないよう生徒会一同頑張ります！

2学期の学校行事

<全体の行事>

- 8・9月 始業式
就職面接指導
球技大会①
- 10月 100周年記念式典
中間試験
2年インターンシップ
- 11月 璞玉フェスタ
インターンシップ報告会
2学年修学旅行
- 12月 期末試験
球技大会②
終業式



斎藤祐樹さんの記念講演



玉村図書館での職場体験



璞玉フェスタ(各部挨拶)



100周年記念

「開校記念式典(100周年記念式典)より」

校長 田島 正徳

玉村高校は今年で創立100周年を迎えました。

コロナ禍ではありましたが、10月1日に多数の来賓の方にご参列いただき、盛大に100周年記念式典を開催することができました。また、式典後には、元プロ野球選手である斎藤祐樹さんによる記念講演も開催でき、「継続することの大切さ」という題で、幼少期からプロ野球選手引退まで、さまざまな経験を踏まえたお話を拝聴できました。

式辞でも述べましたが、本校は、大正11年に、玉村実業補習学校女子部通年科として、今の玉村小学校の敷地に開校しました。その後、3回の校種・名称変更を経て、昭和23年に群馬県立佐波農業高等学校玉村分校として町立から県立へ移管されました。昭和27年には、町長さんや町議会、学校が一丸となり活動した結果、現在の敷地に全面移転となり、昭和34年には群馬県立玉村高等学校として念願の独立を果たしたのです。開校から26年間の町立学校の時代はもちろん、県立高校になってからも、町長さんを始め、玉村町の関係者の皆さま、本校に携わるたくさんの方々のご支援・ご協力のおかげで現在の玉村高校があるのです。

皆さんはその歴史と伝統ある学校の一員です。学校の伝統は、生徒の日々の活動によってつながれ、時代に合った伝統だけが継承されていきます。新しい伝統を作ろうと思って学校生活を送るわけではなく、生徒の一日一日が刻まれて伝統となっていくのだと思います。

毎日の学校生活における楽しさは、「今までできなかったことが、できるようになること」です。わからなかった勉強が、少しでもわかるようになること。恥ずかしくて、自分の気持ちを伝えるのが苦手だった人が、伝えられるようになること。正しく使えなかった敬語が使えるようになること。自分の気持ちばかりが前に出てしまう人が、相手の気持ちを考えられるようになること。クラスの一員として学校行事に前向きに参加すること。周囲と協力して責任を果たすこと。例を挙げればキリがありませんが、挑戦できることはいろいろあります。友達や先生との関係を通じて、充実した学校生活を送ってください。毎日、学校中心の生活に精一杯取り組み、失敗を恐れずに新しいこと

にチャレンジしてください。それが、新しい伝統として一つずつ刻まれていくのだと考えています。まさに「継続することの大切さ」だと感じます。

皆さんに一つ紹介しておきたいことがあります。ある卒業生の方のお話です。その方は60年前に本校を卒業されており、突然に本校を訪問されました。「玉村フリモ」に、本校が創立100周年と特集された記事を見て、急に母校が懐かしくなったということです。来校した時、懐かしくて校舎の周りを歩いてみたそうです。校舎も体育館もすっかり変わってしまったものの、配置は同じで、懐かしさで涙が出る思いだったと。そして、すれ違う生徒がみな、自分に「あいさつ」をしてくれることに感激したそうです。最初に会った男子生徒は特に大きな声で、その後も、どの生徒も皆あいさつをしてくれる。60年前の校風とはまったく違い、驚いたようです。そして、60年前の高校時代に、自分はこんなに礼儀正しくできなかったことが今更ながら恥ずかしい…と、その後にお手紙もいただきました。その手紙には、嬉しくて、現在の本校の様子をお仲間であるたくさんの卒業生に紹介したと書かれていました。最後には「玉村高校卒業生として、あらためて玉高が発展することを祈念し、開校100周年のお祝いとさせていただきます…栄あれ、玉高」と結ばれていました。

少子化が進み、学校も統廃合される時代になりました。先日、ある先生と話していたら、自分の通った学校は、小学校も中学校も高校も、(統廃合により)全部なくなってしまいましたと言っていました。学校が100年続くことは、皆さんが想像するよりも、はるかに価値のあることなのかもしれません。

皆さんは、自分が通っているこの玉村高校を、ぜひ、好きになってください。そして、学校と仲間を大切にしてください。願わくば、この先100年もずっと玉村高校が続いていき、皆さんも、上の先輩のように、卒業後に母校を訪れて、昔を振り返り、懐かしさで涙が出るような、「璞玉から珠玉へ」と、光り輝くような充実した学校生活を過ごしてほしいと思います。